

(2) 漏洩場所及び漏洩量

給油取扱所における漏洩事故 1,030 件のうち、漏洩量が判明している 767 件の事例について分析した。漏洩場所ごとに漏洩量の範囲を区切って分類すると、表 1 のとおりである。

表 1 場所別漏洩量(件数)

漏洩量範囲	計量機	地下タンク等	油分離装置	建物等	空地	その他	合計
1 L 以下	125	10	1		1	1	138
1 L 超～10 L 以下	128	14	2	1	2	1	148
10 L 超～100 L 以下	102	52	6	6	8	1	175
100 L 超～1,000 L 以下	104	88	2	9	4	2	209
1,000 L 超～10,000 L 以下	27	58		2		2	89
10,000 L 超	3	3	1		1		8
合計	489	225	11	19	15	8	767

表 1 に基づき、「漏洩量」ごとの割合を見ると、図 3・3・2 のとおりであり、漏洩量が「1 L 以下」と「10 L 以下」を合わせた事故件数は、286 件で 37.3% を占め、更に、「100 L 以下」まで範囲を広げると、461 件で 60.1% を占めている。従って、全漏洩事故の 3 分の 1 強が 10 L 以下の漏洩であり、約 6 割が 100 L 以下の漏洩であることが分かる。

一方、10,000 L を超える多量漏洩事故も、1% と僅かではあるが発生している。

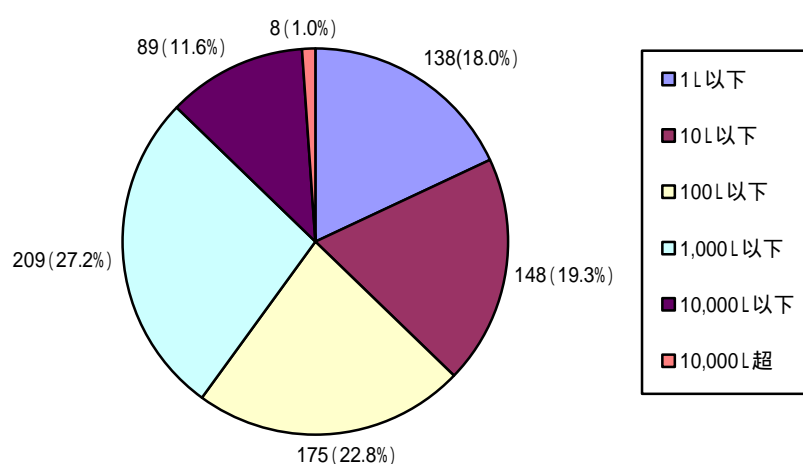


図 3・3・2 漏洩量別の事故発生件数及び割合

表1に基づき、漏洩場所と漏洩量の関係を図3・3・3に示す。

計量機における漏洩発生は件数が最も多い。計量機における漏洩は、「1,000L以下」までが圧倒的に多く発生しており、それ以上の漏洩量になると極度に件数が減る。地下貯蔵タンク等における漏洩は、「100L以下」から「10,000L以下」の間に多く分布し、「1,000L以下」が最も多くなっている。

油分離装置における漏洩では、「100L以下」が最も多く、建物等における漏洩では、「1,000L以下」、空地における漏洩では、「100L以下」、空地における漏洩では、「100L以下」が最も多くなっている。

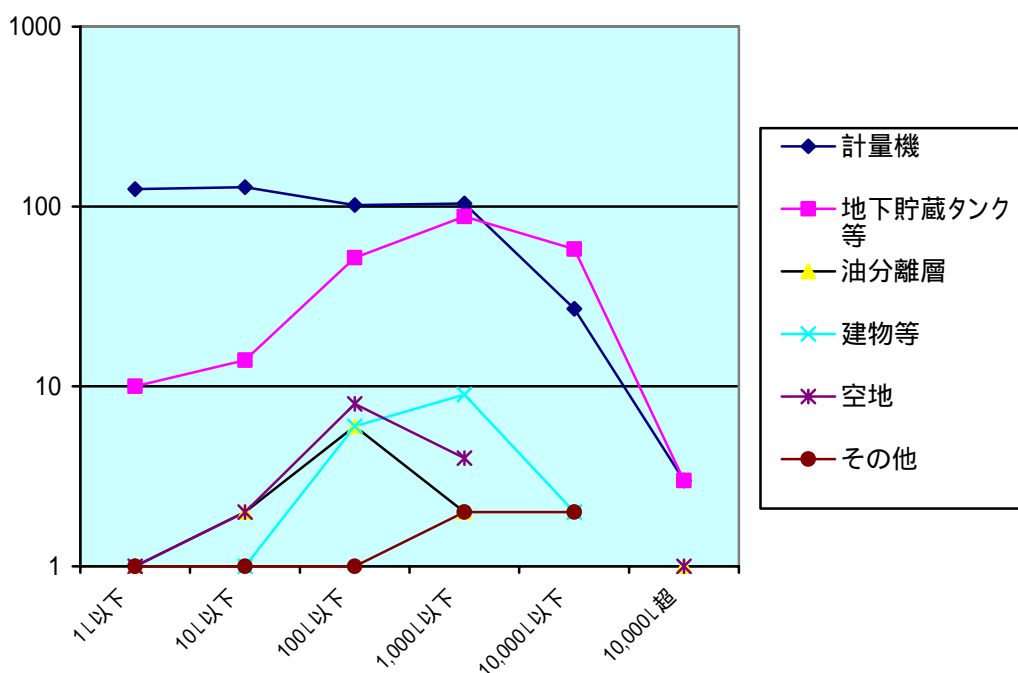


図3・3・3 漏洩量と漏洩場所との関係 (件数)